

# 平成25年度動物由来感染症サーベイランス結果報告

大阪府では、動物由来感染症の発生を防止し、又はまん延を防止するため、環境農林水産部と健康医療部が一体となって動物由来感染症の積極的な検査(サーベイランス)を実施しています。検査の結果は、下記のとおりです。

平成26年3月31日現在

感 染 症 名	対象動物	検体	4から2月			3月			平成25年度 計		
			検体数	陽性	陰性	検体数	陽性	陰性	検体数	陽性	陰性
結 核	牛		710頭		710頭	70頭		70頭	780頭		780頭
腸 管 出 血 性 大 腸 菌	牛・めん山羊	糞便(農家)	239検体		239検体	3検体		3検体	242検体		242検体
	牛	枝肉(食肉処理場)	360検体		360検体	30検体		30検体	390検体		390検体
ウエストナイルウイルス感 染 症	蚊		2810匹		2810匹				2810匹		2810匹
	野鳥	脳	12羽		12羽	1羽		1羽	13羽		13羽
高 病 原 性 鳥 イン フ ル エ ン ザ	鶏・アヒル	気管・クロアカスフ	404羽		404羽	30羽		30羽	434羽		434羽
		血清	770羽		770羽	60羽		60羽	830羽		830羽
	野鳥	気管・クロアカスフ	36羽		36羽	10羽		10羽	46羽		46羽
	野鳥(渡り鳥)	糞便	457検体		457検体	100検体		100検体	557検体		557検体
豚 イン フ ル エ ン ザ	豚	肺	9頭		9頭	2頭		2頭	11頭		11頭
デ ン グ 熱	蚊		2810匹		2810匹				2810匹		2810匹
チ ク ン グ ニ ア 熱	蚊		1735匹		1735匹				1735匹		1735匹
日 本 脳 炎	豚	血清	72頭	4頭	68頭				72頭	4頭※1	68頭
	蚊		2810匹		2810匹				2810匹		2810匹
ブ ル セ ラ 症	牛	血清	316頭		316頭				316頭		316頭
レ プ ト ス ピ ラ 症	豚	腎	9頭		9頭	2頭		2頭	11頭		11頭
	アライグマ	尿	77頭	7頭	70頭				77頭	7頭※2	70頭
Q 熱	アライグマ	血液	100頭		100頭				100頭		100頭
日 本 紅 斑 熱	アライグマ	血液	100頭	4頭	96頭				100頭	4頭※3	96頭
ク リ プ ト ス ポ リ ジ ウ ム	牛	糞便	21頭		21頭				21頭		21頭
B S E	牛	延髄(食肉処理場)	5385頭		5385頭	19頭		19頭	5404頭		5404頭
		延髄(死亡牛)	63頭		63頭	2頭		2頭	65頭		65頭
ト キ ソ プ ラ ズ マ 症	豚	血清	337頭	4頭	333頭	25頭		25頭	362頭	4頭※4	358頭
	アライグマ	血清	100頭	6頭	94頭				100頭	6頭※5	94頭
豚 レ ン サ 球 菌 感 染 症	豚	臓器	9頭		9頭	2頭		2頭	11頭		11頭

※1 日本脳炎については平成23、24年度には確認されませんでした。今年度は抗体の保有が確認されました。日本脳炎ウイルスへの感染対策としては、蚊の季節における防蚊対策が有効です。

※2 レプトスピラ症陽性については、一般的な感染症予防の観点からも野生動物と接する際には素手で触れず、また取り扱った後は手指を十分に洗浄、消毒して下さい。

※3 マダニ類に咬まれる事により感染する恐れがありますので、野山に入る時には肌を露出しない服装や、虫除けスプレーを使用する等、注意しましょう。

※4 トキソプラズマ症抗体陽性については、臨床症状はなく異常はありませんが、養豚農家へより一層の衛生対策の指導を実施しています。

※5 アライグマの糞尿等を介して、感染することはありませんが、一般的な感染症予防の観点からも野生動物と接する際には素手で触れず、また取り扱った後は手指を十分に洗浄、消毒して下さい。